

二〇二二年一〇月二二日

栗飯を炊いてお仏供と昼ごはん	はく子
細波の綺羅に初鴨潜りけり	ぼんこ
一筋の川面が分かつ芒原	なつき
喬木に色を添えたる蔦紅葉	わかば
秋声は大山門の柱より	はく子
保護犬の細き泣き声秋の暮れ	愛正
手の平に乗る盆栽の紅葉かな	ぼんこ
あきつ群る通園バスの停留所	なつき
立ち入れば溺れさうなる芒波	素秀
句の道に定年はなし夜学生	かかし
色鳥来白寿の母を祝ふかに	わかば
オーケストラ並びにハロウィンかぼちやかな	なつき
銀杏の実終焉地てふ芭蕉句碑	かかし

毎週句会秀句・みのもる選・二〇二二年一〇月二三日